

# 諏訪・岡谷地方の経済概況速報

平成18年10月

(平成18年9月末調査)

平成18年10月16日

長野県岡谷市郷田二丁目1番8号

**諏訪信用金庫  
経営相談室**

電話 0266(23)4567(代)

FAX 0266(23)8044

		実 数	前年同期比
有効求人倍率 【8月】	諏訪公共職業安定所管内	1.22 倍	0.07 ポイント
	岡谷公共職業安定所管内	1.48 倍	0.10 ポイント
手形交換高【9月】 (諏訪手形交換所扱)	枚 数	9,959 枚	37.5 %
	金 額	10,791 百万円	8,501 百万円
うち不渡り発生状況	枚 数	2 枚	0 枚
	金 額	1,550 千円	850 千円
車庫証明取扱件数【9月】 (諏訪・岡谷家用自動車協会管内)		1,384 件	2.1 %
新設住宅着工件数(18年4月~8月) (諏訪地方事務所管内)		1,019 戸	7 戸

## 概 況

### 地域の製造業

輸送用機械、電気機械、産業機械、金属製品加工など幅広い業種の下請企業の受注状況は安定している。

音響機器部品など一部企業の受注は減少しており、携帯電話部品の下請企業の中には従来の部品加工の拠点が海外に移行し、受注が減少したところもみられる。

アルミやステンレスなどの素材価格の上昇が続いており、原油高に伴う輸送コスト・副資材の値上がりなどにより、利益確保に課題を抱える企業が多い。選別受注や受注単価の見直しに応じてもらった下請企業も一部にみられるが、自動車部品加工の受注単価に改善はみられない。

地域製造業は収益性に課題を抱え、半導体関連部品などの受注に先行き不透明感が聞かれるが、総じて受注動向や雇用状況から前月に続き景況は安定している。

### 商業

9月前半は天気が周期的に変化し曇りや雨の日が多かったが、後半は晴れた日が多く平均気温は平年並みとなったものの、朝夕の気温が下がり肌寒い日が続いた。生鮮食品などの売れ行きに回復感はみられなかったが、衣料品は後半にかけて売れ行きの戻ってきたところが多くみられた。

衣料品は、朝夕の気温が下がったことから長袖の衣料品など売れ行きが戻り、なかでもロングカーディガンなどに動きがみられた。

食料品は野菜や果物の売れ行きが順調だったものの、総じて購入点数が伸びず、売上高は前年並となった模様。

大型家電店は、10月1日からのデジタル地上波放送を前に大型薄型TVは好調な売れ行きをみ

せ、パソコンは入れ替需要がみられた。

ホームセンターは、前半は園芸資材、後半は朝夕の気温低下からコタツなどの暖房器具に動きがみられ、総体では売上は前年を上回った模様。

## 観光

夏から秋の観光シーズンへの移行で例年低調な時期となっている。9月上旬の週末は天候に恵まれなかったこともあり、天候に恵まれた前年同時期に比べると幾分低調となった。

後半は観光地の入り込み客が増えたものの、旅館・ホテルにより宿泊客は増加・減少区々となっており、総じて前年を割り込んだ模様。飲食店は依然低調だった。

上諏訪の旅館・ホテルの宿泊客は新作花火大会の影響で満館のところもみられた。個人客が増加し前年並みに回復したところもあるが、前年と対比すると総体では幾分割り込んだ模様。

蓼科・白樺湖・車山方面の宿泊客は、新企画などにより団体客が増加し前年を上回ったところもみられたが、減少したところが多く総じては前年を下回った模様。観光施設利用者は、天候に恵まれた前年同期対比では下回っている。

下諏訪温泉は、一部旅館に宿泊客が増加したところのみられたが総体では前年を割り込んだ模様。昨年からはまった赤砂先の諏訪流鏝馬は天候にも恵まれ大勢の見物客が訪れた。

諏訪大社の参拝者は53千人で前年に比べ2千人程度減少した。

## 建設業

市町村の9月の発注工事は、533百万円で前年同月比324百万円減少した。地元企業への県発注工事は550百万円で、前年同月比325百万円増加した。県・市町村合わせた9月の公共工事の地元企業受注額は、1,083百万円で前年同月比1百万円増加した。

民間工事は8月の新設住宅着工件数が139戸で、前年同月比199戸減少した。18年4月～8月の累計着工戸数は1,019戸で、前年同期の累計着工戸数に比べ7戸増加している。

建築工事は、工場建設や個人住宅やリフォームなど予定の受注量を確保したところもみられ、土木工事は一部で災害復興工事が始まった。

## 雇用

8月の有効求人倍率は、諏訪公共職業安定所1.22倍、岡谷公共職業安定所1.48倍で、諏訪地域の有効求人倍率は1.32倍と長野県の1.18倍を上回っている。

諏訪職安と岡谷職安を合わせた8月の新規求人(全数)は1,324人で、前月より34人増加した。また、一部の企業には派遣型から直雇用へ転換の動きも見られる。

地域の有効求人倍率は、平成15年10月以降35ヶ月連続して1倍を上回っている。

当金庫から見た需資動向に大きな変化はみられない。

# 業種別動向

## 1. 電気機器

- プリント基板 受注状況は企業により区々となっている。携帯電話、デジタル家電などの基板は高水準の生産を続けているところもあり、業界全体の受注は幾分増加している。
- コンデンサー 自動車用コンデンサは幾分増加しているが、エアコン用は海外生産が増加している。
- プリンター 下請企業の受注状況は区々となっており、大型プリンターは安定している。小型プリンター部品の受注が増加したところもみられる。
- コンダクター・リレー 受注は安定しており堅調な生産が続いている。

## 2. 輸送用機械

- 自動車 国内メーカーは安定した生産を続けており、下請企業の受注は総体では高水準となっているが、国内の一次外注工場で大規模設備投資が行われており先行き懸念する企業もみられる。  
海外出荷の二輪車部品の受注は弱含みとなっている。
- ピストンリング・シリンダーライナー 海外の生産が増加しており、下請け企業の受注は幾分弱含みとなっている。
- 船外機 外注企業の受注は安定している。

## 3. 一般機械

- 工作機械 自動車部品やOA部品の加工機械は引続き堅調な生産を続けている。先行き慎重な見方をしているが、当面繁忙状況となっている。
- 専用機・省力機器 専用機械、省力化機械など産業機械の受注は安定している。
- 搬送用機械 デジタル家電企業や食品企業などの受注は堅調でフル稼働の生産が続いている。
- 金型 情報機器や音響機器の金型受注は機種により増減区々となっているが総じては堅調となっている。
- アルミダイキャスト 自動車部品や情報機器、電源機部品など高水準の生産を続けているところがみられる。受注状況は総じて増加している。

## 4. カメラ・レンズ

- デジタルカメラ 全国のデジタルカメラの8月の生産台数は660万台で前月比24.4%、前年同月比41.4%の増加となっている。(カメラ映像機器工業会) カメラ映像機器工業会は9月12日に平成18年の出荷見通しを1月発表の前年比4.0%増から12.7%増の7,297万台に改定した。前半7ヶ月の実績では総出荷は前年比20.3%の増で国内出荷はレンズ一体型デジタルカメラが前年比7.9%の増加、輸出はレンズ一体型デジタルカメラが22.5%増加している。レンズ一体型は海外生産が主流となっており、地域の下請企業の受注状況は区々となっている。レンズ交換式1眼レフの8月の生産台数は42万台で、前月比19.

0%の増となっている。交換レンズの金属加工の受注は大幅に増加し、地域の下請企業の生産状況は引き続き高水準となっている。

プロジェクター メーカー各社の海外生産比率の高まりを受け、下請企業の受注は前年同期比では大幅に減少している。地区内メーカーの家庭用プロジェクターは国内外で好評となっている。

レ ン ズ ガラスレンズの生産は海外が主体となっているなか下請企業の中には受注が幾分増加した企業が見られるが、国内のガラスレンズの生産量は減少しており総体では減少傾向となっている。

## 5. 織 維

ニ ッ ト 冬物ニットの生産時期を迎えている。9月中旬以降は朝夕の気温が下がったことから、ロングカーディガンやボレロなどの婦人衣料品に動きが始め、専門店の売れ行きは幾分回復している。地域のニットメーカーへは売れ筋の追加注文などがみられる。

## 6. 食 品

寒 天 受注、出荷ともにブームの昨年に比べ落ち着いた動きとなっており高級品の需要は弱含みとなっている。

味 噌 季節的に需要が低調な時期で出荷は前年並みとなっている。

## 7. 製 材

諏訪地域の8月の木造住宅着工件数は102戸で前年同月比17戸増加した。木材の動きが依然として弱いなか、輸入材の減少から建材(コンパネ、ベニヤなど)は前年比2割程度値上がりしている。

## 8. 建 設

公 共 工 事 9月に地元業者が受注した県関係公共工事は、発注機関別では、諏訪建設事務所15件、土地改良工事6件など合せて23件、契約金額550百万円となっている。18年4月～9月の累計契約額は1,520百万円で前年9月累計比14百万円の減少。市町村発注工事は、建築工事9件74百万円、土木工事・下水道工事など91件417百万円、その他工事13件42百万円で合計113件533百万円と前年9月に比べ324百万円減少した。

民 間 工 事 8月の新設住宅着工件数は139戸で、前年同月比199戸減少した。建築工事は工場建設やリフォーム、個人住宅など動きが見られるほか、土木工事が幾分増加している。

## 9. 商 業

9月前半は天気が周期的に変化し曇りや雨の日が多かったが、後半は晴れる日が多く平均気温は前年並みとなった。朝夕の気温が下がり始め肌寒い日が続く、衣料品やホームセンターなど売れ行きを伸ばした商品が見られた。

衣 料 7月の集中豪雨以降、各地域のイベント中止や天候不良により9月中旬までは総じて低調だったものの、子供衣料や実用衣料品などの売り上げは増加した。9月中旬以降は平均気温にもどり、朝夕は肌寒い日

	が続いたことからロングカーディガンやボレロなどの婦人衣料品に動きがみられた。
食 料 品	個人の購入点数が伸びない中で販売競争が激しく、価格は幾分低下している。生鮮三品は魚介類や食肉の売上は前年を割り込んだ模様であるが、野菜や果物などは順調な売れ行きだった。
電 気 機 器	薄型大型TVは引き続き売れており、パソコン、携帯電話も入れ替需要から順調な売れ行きをみせている。
自 動 車	諏訪・岡谷を合わせた9月の車庫証明件数(軽自動車除く)は1,384台で前月比290台増加し、前年同月比では2.1%で5ヶ月ぶりにプラスとなった。好調な軽自動車に押されているが、普通乗用車も幾分動きがでている。
ホームセンター	上旬は園芸資材・行楽商品の動きがよく、後半は朝夕の気温低下により暖房器具などに動きがでている。
デパート	7月の豪雨や9月まで続いた高温の影響を受けたが、9月中旬以降朝夕の気温が下がるに従い婦人服をはじめ衣料品総体に活気が戻っている。食料品も順調な売れ行きとなっている。リニューアル開店から1年経過し来店客数が増加しており、季節感が戻れば婦人衣料品・紳士服・子供服などの順調な売り上げが期待されている。

## 10. 観 光

夏から秋の観光シーズンへの移行期で例年低調な時期となっている。新作花火大会は好評で入込み客で大変な賑わいをみせた。9月上旬は週末の天候に恵まれなかったこともあり、天候に恵まれた前年同期に比べると幾分低調となった。また、9月後半は観光地の入り込みも増加した。観光施設の利用者は天候に恵まれた前年同期比では下回った模様。宿泊客は旅館・ホテルにより増加・減少区々となっている。

上 諏 訪 温 泉	新作花火大会の宿泊は満館のところのみられた。個人客はインターネット予約などで幾分増加しており前年並みに回復したところのみられたが、総体では前年を幾分割り込んでいる。
蓼科・白樺湖・車山	宿泊客は新企画などにより団体客が増加し前年を上回ったところのみられたが、減少したところも多く総体では前年を幾分割り込んだ模様。
下 諏 訪 温 泉	一部旅館は宿泊客を伸ばしたが総体では前年を割り込んでいる。赤砂先で行われた諏訪流鎗馬は天候にも恵まれ大勢の見物客で賑わった。
諏 訪 大 社	参拝客は53千人で前年を2千人程度下回った。上社の参拝客は平日の団体客が多くなっている。

## 17年工業統計速報からみた諏訪地方工業の推移（4人以上の事業所）

17年12月31日現在で行われた工業統計の速報が発表されました。

（17年は速報値のため確定値と異なる場合があります）

平成17年の工業統計では、諏訪地方の製造品出荷額等は8,237億円で前年比0.4%増加し、増加率は長野県の3.3%を下回っております。

事業所数は1,097事業所で前年比43事業所4.1%増加し、長野県の2.7%を上回っております。

粗付加価値額は3,449億円で前年比121億円と3.4%減少し、長野県の伸び率7.2%を大きく下回っております。

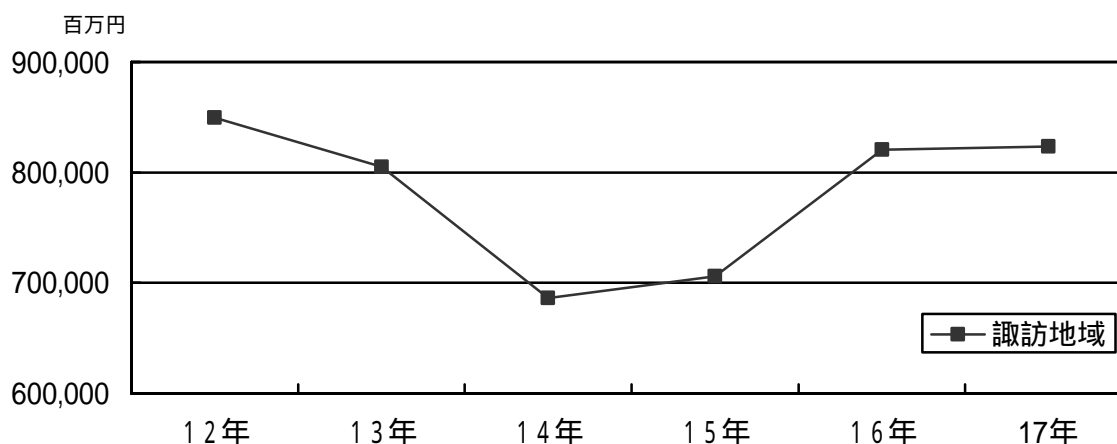
従業員数は30,079人で前年比4.2%増加し、長野県の0.9%を上回っております。

### 諏訪地域製造品出荷額等の推移

製造品出荷額等

（百万円）

	12年	13年	14年	15年	16年	17年
長野県全体	7,016,823	6,517,286	5,331,857	5,683,312	6,035,010	6,233,723
諏訪地域	849,902	804,759	686,364	705,889	820,444	823,739



平成13年後半から14年前半にかけてIT機器の生産調整が行われたが、その後デジタル家電（薄型TV、デジタルカメラ、DVDレコーダーなど）や携帯電話など新製品が次々に開発され、国内および海外の市場が拡大を続けております。製造品出荷額等は順調な伸びをみせたが粗付加価値額の伸び率の鈍化が懸念されます。

\* 粗付加価値額 = 製造品出荷額等 - (消費税 + 原材料使用額)

## 最近の長野県経済の動向

(2006年10月2日) 日本銀行松本支店

2006年8月の主要経済統計および企業ヒアリングを中心とした月例調査に加え、第130回全国企業短期経済観測調査(長野県分<別途公表>)の結果も併せて取りまとめ。

長野県経済は、着実に回復している。

足もとの最終需要の動向をみると、**輸出**は、06年度上期実績見込みが前年を上回った後、下期は伸びを高める計画となっているなど、増加基調をたどっているほか、**設備投資**は、06年度計画が製造業を中心に前年を上回っており、増加している。また、**住宅投資**は、市部を中心に増加基調にある。**個人消費**は、乗用車販売、衣料品売上がなお弱めの動きとなっているが、食料品や家電製品、身の回り品を中心に、総じてみれば底堅さを強めつつある。一方、**公共投資**は、引き続き前年を下回った。

以上のような最終需要のもとで、生産は、IT関連財および自動車向けが高水準の生産を持続しているほか、産業機械向けが底堅く推移している。また、企業収益は、製造業・非製造業とも06年度上期実績見込み・下期計画のいずれも前年比増益が見込まれている。この間、雇用面をみると、企業活動の活発化を映じて、有効求人倍率が高水準を持続しているほか、常用雇用者数も引き続き前年比増加するなど、改善基調が続いている。一方、所得面は、所定内給与や所定外給与の増加を受けてきまって支給する給与が引き続き前年を上回るなど、着実に改善している。

金融面の動向をみると、地元8行庫ベースでの貸出平残前年比は、-0.6%と前月に比べマイナス幅が縮小した(7月:-0.8% 8月:-0.6%)。一方、実質預金平残前年比は、+0.4%と前月に比べプラス幅が拡大した(7月:+0.1% 8月:+0.4%)。

この間、貸出約定平均金利(新規分)をみると、2.125%と前月比-0.031%ポイント低下した。なお、9月入り後、各行庫が短期プライムレート(最優遇貸出金利)を引き上げている。

### 個別業界の動向

(生産)

**半導体関連**では、半導体素子およびシリコンウエハが、デジタル家電・自動車関連向けを中心に、高水準の生産を続けている。この間、リードフレームは、低調な生産となっている。

**電子部品**では、コンデンサが、デジタル家電・自動車関連向けを中心に、抵抗器も、デジタル家電・携帯電話向けを中心に、高水準の生産を維持している。また、モーターは、低調な生産が続いている。

**情報機器**では、県内生産分のパソコン(ノートブック型)は、海外需要の好調を映じて、生産水準を引き上げている。また、プリンターは、複合機タイプの販売堅調を背景に、横ばい圏内で推移している。一方、デジタルカメラは、普及初期分の買い替え需要が幾分増加しているが、海外生産の強化を受けて、生産は低調の域を脱していない。

**時計**では、完成品が、海外生産シフトの影響から、また、ムーブメントは、価格競争の激化を受けて、基調としては低調な生産を続けている。

**自動車部品**は、国内向けが販売台数の減少を受けてやや鈍化しているものの、海外向けが、需要好調な中で、モデルチェンジ車種の作りこみも加わって、生産水準を引き上げたことから、全体として高水準の生産が続いている。

**工作機械**は、国内の自動車向けが低調である一方、海外の自動車向けや国内外の情報関連機器向けが堅調を持続しており、全体として横ばい圏内で推移している。

**計器**は、国内の産業機械向けや半導体関連向けが横ばい圏内での動きとなる中、国内外の自動車向けが減少傾向をたどっている一方で、ガスメーター向けがこのところ増加しており、全体として底堅い生産となっている。

**バルブ**は、ウェイトの高い国内外の産業機械向けおよび国内の住宅向けが増加していることから、生産水準を一段と引き上げた。

**味噌**の出荷は、横ばい圏内で推移している。

**飲料**は、8月中・下旬の気温上昇を受けて、茶飲料、スポーツ飲料の受注が増加したことに加え、野菜飲料の需要も好調を持続していることから、総じてみれば堅調な生産となっている。



(個人消費)

**県内大型小売店(百貨店、スーパー)売上高**(当店調べ<店舗調整前>)をみると、衣料品は、8月中・下旬の気温上昇によって秋物商品の立ち上がりが不調であったことから、引き続き前年を下回った。一方、身の回り品は、ブランド・テナント出店効果や催事効果等により婦人向け商品や時計・宝飾品などの高額商品が好調に推移したことから、食料品も一部店舗の改装・新規出店効果等から、引き続き前年比増加したため、全体では5か月連続で前年を上回った。

**家電販売**は、パソコンが新OSの発売を控えてこのところ減少しているものの、気温上昇を受けてエアコンが売行きを伸ばしたほか、デジタル家電や白物家電等が好調を維持していることから、全体では堅調な販売が続いている。

**自動車販売**をみると、8月の新車登録台数は、ガソリン価格が高値で推移する中で、乗用車が引き続き減少した一方、軽四輪が新型車投入効果等により前年比プラスが続いていることから、全体では4か月振りに前年を上回った。

(建設)

**県内建設関連企業における民間工事新規受注額**は、県外業者との競合が続いているものの、マンション建設や設備投資案件が継続的にみられるなど、持ち直しつつある。

**公共工事請負額**は、県発注分の減少から、8月は7か月連続で前年を下回った。

**住宅着工戸数**は、貸家が前年の大幅着工増の反動から減少したものの、持家・分譲が、住宅ローン金利の先行き上昇が窺われる中で、住宅業者等が積極的な販売活動を継続していることもあって増加するなど、月々の振れを伴いながらも、市部を中心に増加基調にある。